

ひび割れた茶碗でも

私は昭和二十六年、二十二歳のときに、当時不治の病とされていた結核に倒れ、国立福岡療養所に入所しました。そのころ、田舎の常識では、療養所に入った人は二度と帰ってこれないと言われていた時代でしたので、私の絶望と悲しみは相当なものでした。その療養所は元軍人用で、古い木造の建物が松林の中に建っていました。薬もなく、頼りはよい空気と安静だけという時代でしたので、患者にとっては、所長先生の回診が待たれる日々でした。足を痛めておられた所長先生は、長い廊下を歩くときに、義肢をギーコギーコときませながら病室にやっつてこられます。待ちあぐねた患者は、先生の顔を見るなり、いつも決まった質問をしたものです。

「先生、私の病気は治りますか」

「再発はしませんか」

優しい所長先生は、皆の顔を見渡すと、こう答えられました。

「『治ります』『再発はしません』と言えたら、私たち医者は苦労しません。あなたの身体は私の足と同じで治りません。ひびの入った茶碗です。しかし、ひび割れた茶碗でも、そつと使えばご飯も食べられるし、お茶も飲めるでしょう。ですから、身体を大事に大事に使って下さい。以来私は、五十年以上にわたって先生のご指導を忠実に守ってきました。そのため、退所後に始めた勤めも、休まず続けることができました。お陰さまで昨年、喜寿を迎えることができ、元所長先生の、優しさのなかにある凜としたお姿とあのお言葉は、今なお脳裏に焼きついて、元よきご指導により「健康」という最高のプレゼントをいただき感謝しています。」

生涯学習誌「れいろう」より



いかが読まれましたか？

私は、大きな意味での同じ医療人として、所長先生の凜とした姿勢に、敬服しながら読ませて頂きました。

私も患者様と向かい合う時、患者様の

「どれだけ頑張ればいいのか？」

「いつよくなるのか？」

という気持ちを持たれて、不安がいつぱいの方に、何て言っても励ましたら頑張ってもらえるのか、しつかり養生していただけるのか、あきらめずに取り組んでいただけるのが、最大のテーマとなります。その一つの答えがこの文章にあると思います。

病気を作ってしまったのも自分自身、そしてそれを克服して治すのも自分自身という気持ちで患者様を持つていただくことにより、患者様の治癒力をできるだけ多く引き出したうえで、そのお手伝いを、効果的に応援するのが店の商品群の仕事だと思つて、私も所長先生に一步でも、一ミリでも近づけるよう、日々研鑽していかなくてはと思います。

今月の健康テーマ

「自分の体調と病気にしつかり向き合い

自分の身体を大切に使う」

P.S.

今月は、朝夕涼しくなり、季節の変わり目で体調を崩される方が目立ってきています。

体調を「秋・冬」パターンに

一生懸命、調整しようとしてくれる身体をしつかり養生に心掛けて応援してあげましょう！

「自分の身体は自分で守り治し、自分で作り変える」

